

## 『思考と対話：日本哲学プラクティス学会誌』 投稿規定

### 1. 投稿テーマ

思考や対話、その教育に関わる、哲学、倫理学、教育学、心理学などの分野のもの、哲学プラクティスの発展に寄与するもの。

ただし未公開のもの、応募の時点で他の学会誌などに投稿中ではないものに限ります。

### 2. 応募資格

論文テーマに関心のあるすべての人

### 3. 「公募論文」執筆要領

以下の各号をふまえて応募して下さい。

- (1) 思考や対話、その教育に関わる、あるいは、哲学プラクティスの発展に寄与する学術論文で、日本語ないし英語で書かれたもの。
- (2) 分量は、A4 サイズで 40 字×40 行でレイアウトして、本文、図、表、画像、改行などによるスペース、タイトル、注および文献表も含めて、10 ページ以内とします。フォーマットは別紙参照のこと。
- (3) 注についてはソフトウェアの注作成機能を使わず、文末にまとめて記してください。
- (4) 審査の方法は匿名による審査です。匿名性の確保のため、以下の点を守って執筆・投稿してください。
  - ※原稿には、氏名、所属、研究助成や共同研究者への謝辞を記載しないでください。
  - ※氏名、所属、連絡先は別紙に記載して、原稿とともにお送りください。
  - ※自著を参照する場合も、「拙論」「拙稿」といった記載をせず、他の文献と同様に指示してください。
  - ※氏名、所属、プロフィール、自著についての情報、謝辞等は、掲載が決定した後に入れていただきます。
- (5) 雑誌の性格上、広い分野に関わっている読者に宛てられる論文となるので、特定の分野の概念について、他の雑誌で通常必要とされるよりも詳しく説明することが推奨されます。

- (6) 図、表、画像の見やすさや画質について、編集担当は責任を負いません。  
また、図、表、画像等に関する使用許可は、執筆者の責任において、関係する個人・団体と取り結んだ上で提出してください。
- (7) 原稿は、Word 形式と PDF 形式の両方を提出してください。

#### 4. 「研究報告・ディスカッション・書評」投稿規定

- (1) 内容は、哲学プラクティスの実践研究報告、学会参加報告、研究動向の紹介、機関誌掲載の論文に対する意見、書籍の書評など。
- (2) 分量は、A4 サイズで 40 字×40 行でレイアウトして、本文、図、表、画像、改行などによるスペース、タイトル、注および文献表も含めて、5 ページ以内とします。
- (3)～(7)は、公募論文要領に準じます。

#### 5. 応募期間

随時受け付けます。次号掲載のための締め切りは別途、各号ごとに定めます。ただし、定められた期間内に提出された論文であっても、採用された論文の数が多い場合や、書き直し等により審査に日数を要する場合など、次々号以降に掲載が延期されることもあります。

#### 6. 審査

「公募論文」に関しては、編集委員の責任において、査読者に対して論文執筆者の氏名を示さない匿名審査制で審査・選考します。審査の過程で問題点を応募者に指摘し、論文内容の趣旨を変えない範囲で書き直しの要求をする場合があります。また、「研究報告・ディスカッション・書評」に関しては、掲載の可否については、編集委員会に一任とします。なお、ご提出いただいた個人情報厳重に管理し、各号発行に関わる事務に必要な範囲以外で使用することはございません。